

令和8年度 東京都内湾水生生物調査 5月稚魚調査 速報

●実施状況

令和8年5月14日に稚魚調査を実施した。天気は晴で、気温は21.8～24.6℃、調査地点の風は東寄り、風速0.5～4.2mであった。調査当日は中潮で、干潮は9時11分、満潮は15時29分であった(気象庁のデータ)。また、いずれの地点においても赤潮は発生していなかった。

全地点において、ハゼ科が多く出現した。森ヶ崎の鼻とお台場海浜公園ではマハゼが、葛西人工渚ではエドハゼが非常に多く出現した。

水生生物調査実施中！

稚魚調査中は写真ののぼりを掲げています。
見かけた方は、お気軽にお声がけください。

お台場海浜公園での調査風景 →



	森ヶ崎の鼻	お台場海浜公園	葛西人工渚
作業時刻	8:55-10:25	10:53-12:00	12:35-14:07
水温(℃)	22.1	22.9	26.7
塩分(-)	15.5	22.3	19.9
透視度(cm)	56.0	16.0	25.0
DO(mg/L)	8.8	20.4	7.3
DO飽和度(%)	110.2	272.1	101.7
波浪(m)	0.1	0.1	0.3
pH(-)	7.6	9.0	8.2
水の臭気	微下水臭	無臭	無臭
備考			

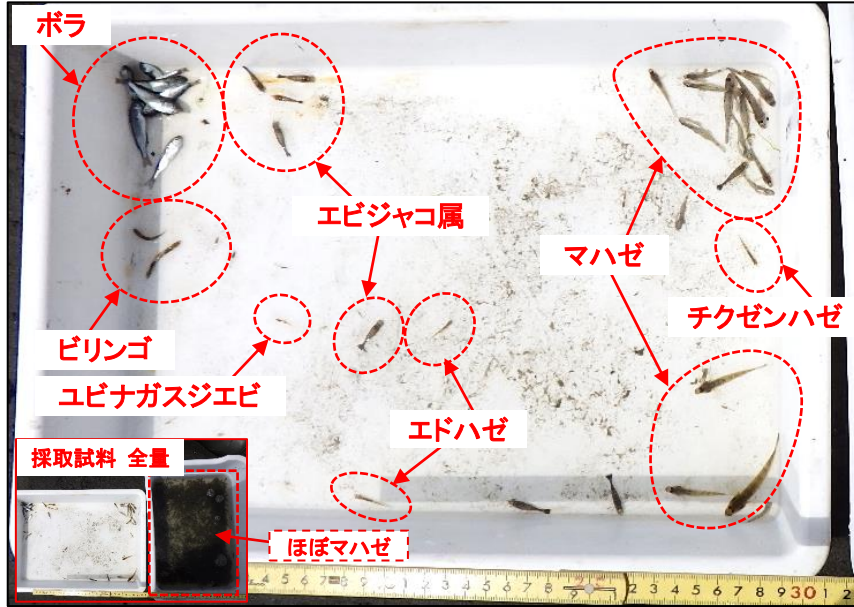
●主な出現種等 (速報のため、種名等は未確定)

主な出現種等	森ヶ崎の鼻	お台場海浜公園	葛西人工渚
魚種 (多い順 ^注)	マハゼ(m)	マハゼ(m)	エドハゼ(m)
	ボラ(+)	ビリンゴ(m)	マハゼ(c)
	エドハゼ(+)	ボラ(+)	ビリンゴ(c)
	ビリンゴ(+)	アシシロハゼ(r)	ボラ(r)
	チクゼンハゼ(r)		ヒメハゼ(r)
魚類以外	エビジャコ属(c)	エビジャコ属(m)	シラタエビ(r)
	アミ科(+)	ワレカラ属(r)	イソガニ属(r)
	エドガワミズゴマツボ(r)	シラタエビ(r)	ニッポンドロソコエビ(r)
備考	他にユビナガスジエビが採集された。	他にユビナガスジエビが採集された。	他にヨコエビ類が採集された。

注) 表中の()内の記号は大まかな個体数を表す。

G:1000個体以上、m:100～1000個体未満、c:20～100個体未満、+:5～20個体未満、r:5個体未満

森ヶ崎の鼻 採取試料



羽田空港北側にある干潟。干潮時でも周りには「海」に取り囲まれているため、岸から歩いて入ることはできない。

●主な出現種等 ※写真のスケール1目盛: 1mm

マハゼ

河口域を中心に生息するが、河川淡水域に遡上することもある。春から秋にかけて干潟で成長し、徐々に深場へと移動する。産卵期の冬から初夏に雄が河口付近の砂泥底に巣穴を掘り、その中に雌が産卵する。

エドハゼ

湾奥の干潟域に生息し、主に小型甲殻類を捕食する。成長するとアナジャコの巣穴を隠れ家とするほか、早春には産卵場所として利用している。

チクゼンハゼ

河口付近の干潟域に生息し、アナジャコの巣穴を隠れ家として利用している。エドハゼによく似るが、体側に明瞭な横斑(トラ模様)や下顎の腹面にひげ状の突起があるのが本種の特徴。

ピリンゴ

マハゼと並ぶ東京湾を代表するハゼの仲間。淡水の影響を受ける河口付近の干潟に多い。アナジャコ等の甲殻類の巣に産卵し、稚魚は成長するにつれて汽水から淡水域に移動する。産卵期は早春。

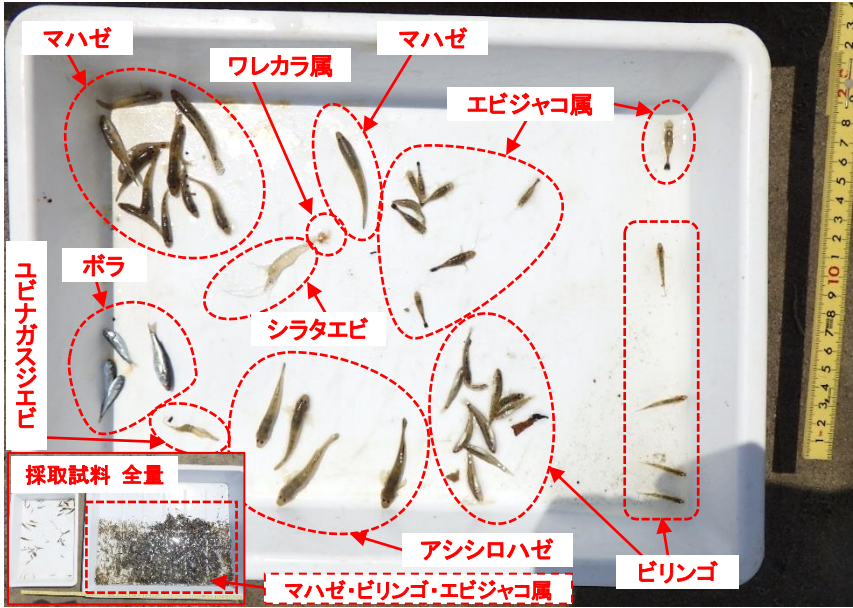
エビジャコ属

稚魚等を捕食する小型の甲殻類。内湾の砂泥底に生息し、普段は砂にごく浅く潜って隠れている。環境の変化に敏感に反応して体色を変化させる。

エドガワミズゴマツボ

殻長 3 mm にも満たない微小貝。卵形で厚めの殻を持つ。内湾の河口域の干潟泥底に生息する。別名:ウミゴマツボ。

お台場海浜公園 採取試料



水際数 m で急に深くなる人工の渚。レインボーブリッジのたもとにある。

●主な出現種等 ※写真のスケール1目盛:1mm

マハゼ

※解説は森ヶ崎の鼻を参照。

ボラ

東京湾内湾に多く生息する。春から夏にかけて稚魚は干潟で成長する。コノシロ同様、成長するにつれて、ハク→オボコ→イナ→ボラ→トドと呼び名が変わる出世魚。干潟で見られるのはオボコまでのことが多い。

アシシロハゼ

鱗が粗く、体側にゴマ模様がある。成熟した個体の体側には白い横縞が現れる。初夏から秋にかけて、河口付近の石や貝殻の下面に産卵する。成魚は春の干潟に多く出現し、マハゼの稚魚等を食べる。

シラタエビ

青く長い触角を持つ。汽水域を主な生息場とし、干潟にもよく出現する。成熟した個体では、体側に青色斑が現れることが多い。

額角はトサカ状に盛り上がる

ユビナガスジエビ

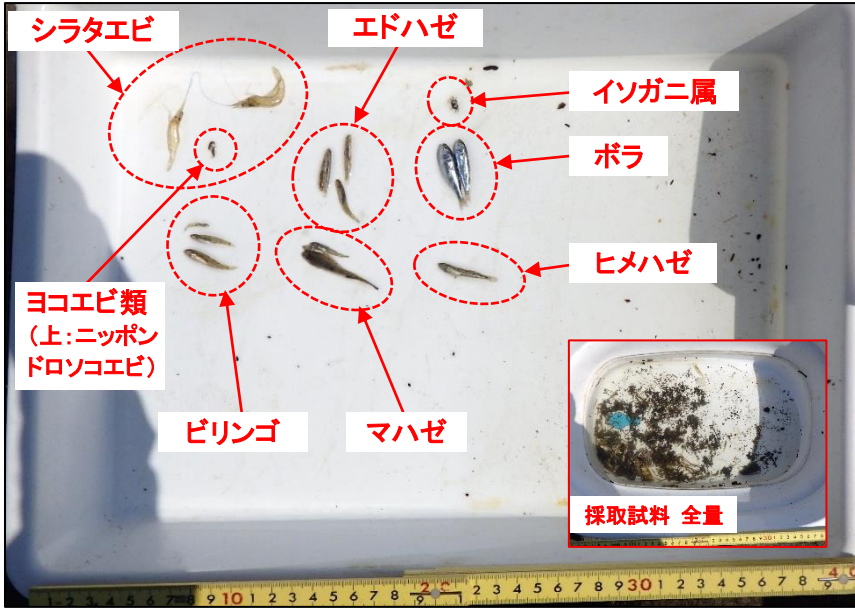
内湾域の転石場や護岸に多く生息する。体長4cmほどのテナガエビ科の仲間。体全体に色素が分布し、生きている間は褐色に見える個体が多い。

額角はほぼ水平

フレカラ属

ヨコエビ類と近縁の小型の甲殻類(端脚類)。海藻やアマモ等にくっついて生活しており、藻場を利用する幼魚の重要な餌となっている。

葛西人工渚 採取試料



東京湾奥にある広大な人工干潟。野鳥等保護区域のため、一般の立ち入りが禁止されている。

●主な出現種等 ※写真のスケール1目盛:1mm

エドハゼ

※解説は森ヶ崎の鼻を参照。

マハゼ

※解説は森ヶ崎の鼻を参照。

ヒメハゼ

内湾や干潟域の砂底や砂泥底に生息する。砂に潜る習性があり、体の模様も砂や砂利の色にそっくりである。産卵期は5月から9月で、二枚貝の貝殻の中に産卵する。下顎が上顎より突出しているのが本種の特徴。

イソガニ属

潮間帯の岩礁や転石帯に多く、テトラポッド等人工的な環境にも見られる。雑食性。

ニッポンドロソコエビ

体長 1~2 cmほどになる。砂底や砂泥底の表面近くにトンネルを掘って生活する。主に懸濁物を食べているが、小型甲殻類を捕食することもある。東京湾では最も普通に見られるヨコエビの一つ。

ヨコエビ類

体長 1 cmほどの小型甲殻類。ヨコエビは端脚目であり、エビ(十脚目)の仲間ではない。東京湾でよく見られるヨコエビ類は扁平な体のものが多く、転石上をその平べったい体を横にしてはい回るように動く。